

# 区議会レポート

# 99号

2023年11月21日発行



## 葛飾区議会議員 かわごえ誠一

### 本号の内容

表面：第4回定例会開会など  
裏面：図書館特別講演会報告

発行：

かつしか区民連合

【区議会控室】〒124-0012

東京都葛飾区立石 5-13-1

電話 03-3695-1111 (代)

fax 03-3697-0137

## 令和5年葛飾区議会第4回定例会開会へ

◆11月14日の議会運営委員会において、第4回定例会が招集されました。◆会期は11月28日から12月14日までとされ、第3次補正予算案の他、子ども未来プラザ東四つ木開設に向けての条例改正などを含む付議事件案16件が示されました。◆そのうち一般会計補正予算案では38億5700万円が計上され、省エネ設備等導入費助成の増額、特別養護老人ホーム代替施設の基本・実施設設計委託、私立幼稚園・保育園の安全対策（送迎バス安全装置設置

費補助等）、産後ケア事業経費の増額、（仮称）お花茶屋地区屋内プール設計経費などが盛り込まれました。◆この11月で前回の区議会議員選挙から2年が経ち、4年の任期の折り返しを迎えました。◆葛飾区議会では2年毎に所属の見直しが行われており、今定例会から新しい委員会の所属となりました。◆かわごえ誠一は保健福祉委員会委員及び危機管理対策特別委員会副委員長となり、11月30日から始まる委員会審議に臨んでまいります。

## かつしか区民連合令和6年度予算要望提出

◆去る10月19日(木)にかつしか区民連合として、青木かつのり区長へ令和6年度予算要望を提出しました。◆災害対策や、家族介護者支援、不登校支援、気候変動対策など区政全般について多方面から予算要望、政策提言をいたしました。◆現在、税収が堅調な状況ですが、私たちはそのような時だからこ

そ将来に向けた基礎固めをすべきと考えています。◆無駄を省く行政改革を進めるとともに、変化の激しい時代の新たな課題に対応するための人的確保や人材育成、また専門性を持った組織体制の構築、協働への体制整備などを求めました。◆今後もより良い葛飾を目指し政策提言を行ってまいります。



### 医療救護訓練

### 避難所開設訓練

◆去る10月22日に葛飾区医療救護訓練が立石の平成立石病院と梅田小学校を中心に開かれました。◆今回は震災を想定し、傷病者に扮した地元町会関係者や看護学生などへ症状ごとにトリアージを行い、重症者は平成立石病院内へ、軽症者は梅田小学校に設置された救護所へと振り分けられ、それぞれの症状へ対応する訓練が行われました。◆また、病院内に災害対策本部が設置され情報連携などが行われ、実践的な訓練が行われました。

◆去る11月4日に葛飾小学校避難所開設訓練が行われました。◆葛飾区では地域の自治町会が中心になり避難所運営本部を構成するとともに、近隣に居住する区の職員が避難所指定職員に指定され、災害時に避難所を開設することになっています。◆今回は避難所関係者の他、PTAや保育園関係者などが参加し、避難所での初動体制や役割の確認をするとともに、備蓄倉庫などの確認をしました。

### かわごえ誠一連絡先

〒124-0012 葛飾区立石8-47-18

携帯電話 090-2932-7315

e-mail : info@kawagoeseiichi.com

### かわごえ誠一プロフィール

●1963年3月川崎市生まれ ●立石在住34年 ●防災士 ●子育てネットワーク・学童保育・PTAなどの活動に取組む ●都議会議員秘書を経て2013年区議選で初当選・2021年三期目当選 ●議会所属：危機管理対策特別委員会副委員長・保健福祉委員会・議会運営委員会など

かわごえ誠一オフィシャルサイト [www.kawagoeseiichi.com](http://www.kawagoeseiichi.com) →

日々の活動はFacebook かわごえ誠一をご覧ください。



# レポート「これからの地域社会に求められる図書館」

◆かわごえ誠一は令和5年第一回定例会に続き、第三回定例会の決算審査特別委員会第四分科会において図書館の充実についての質問をしました。◆そこではICT技術の導入や子ども読書推進計画を含む方針の策定の検討、社会変化に伴う区民ニーズに沿った施設更新などを進める旨の答弁がありました。◆軌を一にするように、葛飾図書館友の会ウイークで「私たちとともにある図書館を考えよう」をテーマに特別講演会が開かれたので参加しました。◆これからの図書館のあり方などが示されましたので、ここでレポートします。

## ■図書館友の会特別講演「葛飾の図書館を育てるために」



講師の大串夏身先生と

◆11月5日(日)に葛飾図書館友の会ウイーク特別公演会が開かれました。葛飾図書館友の会は中央図書館開設懇談会が基礎になり中央図書館が開館する前年の2008年に設立されました。

◆今回は友の会ウイークの中で図書館の基本を再確認するために「これからの地域社会に求められる図書館」を演題に、中央図書館開設にも関わった昭和女子大学名誉教授の大串夏身先生による図書館のあり方と方向性についての講演がありました。以下、かわごえのメモから報告をします。

## ■図書館の基本と日本の図書館の現状

◆図書館とは本と情報を収集して、「整理、保管、利用・活用」するところであり、そこでは人が「読む・学ぶ・調べる・語り合う」ことを行なう。本は人にいろいろな刺激を与え、人を結びつける力がある。一方、図書館は身近な施設だが、日本では高度経済成長期に学生の勉強場所になってきたことなど、「静かにしなければならない場所」となってしまった歴史がある。そのため、図書館で声を出して注意されたり、子どもが騒いで注意され図書館に行きづらくなった子育て中の家庭などもおり、これは誰でも利用しやすい環境になっていないことになる。欧米では図書館で語り合ったり、音楽を楽しんだり、子どもの遊ぶスペースを確保したりなど交流する場がつくられている。日本の図書館の現状は、下記に記す図書館の働きの一部分しか実現されていないことになる。

## ■図書館の国際的評価

◆ISO16439では図書館は、次のような4つの領域でインパクトを及ぼすと示されている。

- 1、個人に対するインパクト（スキルやキャリア支援など）
- 2、親機関（図書館を設置した上位機関）などへのインパクト
- 3、社会的インパクト（社会的包摂、コミュニティ、文化など）
- 4、経済的インパクト（図書館がもたらす経済的な影響など）

◆日本の図書館に欠けているのは、「図書館で集って、本や情報について語り合い、さらに語り合いを通して地域に新しい活動や表現、文化、価値などをもたらす」というところだ。これを担うのは、住民・利用者であり、住民・利用者が、図書館の認識を変えて、本と情報に関わる様々な活動を、図書館という空間の中で行い、図書館を「文化」として地域にもたらすということからはじめる必要がある。

## ■アメリカ図書館権利宣言から見える図書館像

◆アメリカの図書館権利宣言では「暮らしは図書館で豊かになる」と掲げ、次のような図書館像が示されている。

- ・個の自己実現を応援する図書館（自らの暮らしをより豊かに）
- ・識字教育と生涯学習を支援する図書館
- ・家族の絆を深める図書館（家族ぐるみでの学び、成長、遊ぶ場等）
- ・機会の平等を保障する図書館（全ての人へのサービス提供等）
- ・地域を創る図書館（地域住民同士のコミュニケーション促進等）
- ・知る権利を守る図書館（情報を得る権利、言論の自由等）
- ・国の礎を築く図書館（国のガバナンスのための情報にアクセス等）
- ・最先端の研究や学術活動を支援する図書館（研究者への支援等）
- ・人と人との相互理解を手助けする図書館（プログラムや場の提供）
- ・文化資源の保全に貢献する図書館（歴史文書等の収集・保存等）

◆日本では、図書館法や「望ましい基準」があるが、残念ながら日本の既存の図書館の殻を破ることができないでいる。

## ■これからの地域社会に求められる図書館

◆社会的基盤が変化中、図書館に求められているものは、調べるサービスの充実やICT化への積極的な対応などとともに、住民自治の施設として、住民、利用者が集い、本と情報に関わるさまざまな活動を行うことであり、最終的にその成果が地域社会にもたらされることになる。そのために図書館活動への住民の参加が重要になり、もっと図書館に人を呼べるような取組みが必要だ。

## ■シンポジウム：私たちとともにある図書館について考えよう

◆後半のシンポジウム「葛飾の図書館を育てるために」と題して、4名のシンポジストからそれぞれの立場からの報告がされました。《図書館友の会会長》

◆2004年に中央図書館開設懇談会に参加してきた。図書館について学び、他地域の友の会の視察などを行い、葛飾の友の会の立ち上げに携わった。現在立ち上げの経緯を知っている人もわずかになり、活動も変わってきた。今後新しい会員を増やすために何ができるか考えたい。ナイトシアターなどの活動を守っていきたい。

《中央図書館事業推進係長》

◆コロナ禍を経てサービスのあり方が変わってきた。ゆっくり安心して過ごしたいという要望が出てきた。図書館でのサービスをブラッシュアップしていきたい。デジタルの力を借りてサービスを届け、いつでも誰でも利用できる図書館づくりをしたい。

《図書館総合研究所社長》

◆図書館は街の中に溶け込む施設だ。例えば札幌の情報館のように「感じられる棚づくり」をすると人が来る。住民が施設の使い方などをネットで書き込み、拡散するなど、今までの図書館の概念にとらわれない取組みが行われている。住民の側からの意見が重要。図書館は主役は本だが、見せ方をどうするかが重要だ。

《学校図書館コーディネーター》

◆葛飾区には73校に学校司書が配置され、そのコーディネートを行なっている。学校図書館は公共図書館とは違い「読みたくない」子どもも来る。学校図書館は全ての子どもの本を手渡せる場所でもある。子どもたちが図書館利用の素養を積んできているのが葛飾区だ。公共図書館に繋げるための取組みを考えられるといい。

## ■まとめ：図書館が変わっていくために

◆最後に、大串先生から下記のまとめがありました。◆図書館友の会があることは重要だ。図書館はどんどん変わって行かなければならない。いろいろな人に関わっていただきながら区民に伝えていき、仕組みを地域で作ってほしい。葛飾が図書館の街だと言われるようになることを願っている。（以上要約かわごえ）

## ■新しい図書館を目指して

◆今回の講演会では、図書館の基本を確認するとともに今後の方向性が示されました。図書館はただ本を読むだけでなく、住民の情報・知の拠点であること、また、本を通じて人と人がつながる場であり、まちづくりの拠点ともなりえることが確認できました。ただ、過去の図書館のイメージをどう払拭していくのかが一つの課題であり、そのためには新しい図書館像を示す取組みが重要になると感じました。今後の友の会の活動に期待しながら、これからの街づくりと図書館について考え続けていきたいと思っております。



シンポジウムのワンシーン